

科目名	教育の基礎と実践 A, B	形態	講義	開講期	春・秋
担当教員	近藤 茂明	単位	2	年次	2

### ＝授業科目の目標＝

本授業の目的は、学校教育を考えるうえで必要な基本的事項を理解し、教育実践を進めていくために必要な考え方を身につけることです。そのためには、自分自身の受けてきた教育経験をもとにして、教育の今日的課題と向き合い、自分の考えを積極的に発信しようとする態度の育成・能力の習得を目指します。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

授業態度としては、受け身ではなく常に自分の考えを確かめながら参加し、必要に応じて積極的に発言する姿勢が望ましいです。特に①授業最初の新聞記事トピックへの理解、②授業中の話し合い活動における前向きな発言、③授業最後のミニ感想における深い振り返りが授業そのものの質を高めることにつながります。そのためには、授業開始時に気持ちの切り替えをしっかりと行い、授業に集中して参加することが必要となります。

### ＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：本科目に関する目標・内容・留意事項、自分自身の教育経験の振り返り
- 2回 学力・能力論：人間力の多様なとらえ方
- 3回 教育課程（カリキュラム）論：教育実践の土台（枠組み）としての役割
- 4回 学習指導要領：教育実践の指標としての役割とその歴史的変遷、最近の動向
- 5回 学習計画と学習指導案：授業の質を決定する具体的な形とその構成要素
- 6回 授業づくり①：発問の「技」を磨く
- 7回 授業づくり②：机間指導・板書と授業の関係
- 8回 学習形態：学びを増幅させる個と集団の相互関係（個性化教育の視点より）
- 9回 教育評価：戦後日本の評価観の変遷と今日の評価のあり方
- 10回 教師論：子どもの学びと育ちを保障する教師の役割（特に初任教師の成長と教師の意思決定）
- 11回 授業づくりの実際①：初任教師の授業づくり（授業記録の活用）
- 12回 授業づくりの実際②：授業づくりの意味の共有化（授業記録の比較）
- 13回 授業研究①：逐語記録とビデオ映像記録の読み取り
- 14回 授業研究②：逐語記録を丁寧に読み解く意味
- 15回 全体総括：今日的課題に応える教育実践のあり方を求めて

### ＝成績評価の方法と評価の基準＝

毎回の授業総括として、振り返り作文（リアクションペーパー）の提出を求めます。また、学期末には定期試験を実施します。いずれについても、与えられた課題に対して、学習内容を的確に整理し、自身の経験をふまえ、代替案も交えながら自分の考えを分かりやすく論理的に表現することができたかを評価します。評価の内訳は学期末の定期試験 60%、毎授業の振り返り作文・授業への参加状況（貢献度も含め）40%で評価します。

### ＝テキスト（必携）＝

特になし。毎時間の授業開始時にプリント（新聞記事、前回のリアクションペーパー、本時の学習資料等）を配布します。